

製品名: Fhit (リン酸化 Tyr114) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04671**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	FHIT
別名	FHIT; Bis(5'-adenosyl)-triphosphatase; AP3A hydrolase; AP3Aase; Diadenosine 5'; 5'''-P1,P3-triphosphate hydrolase; Dinucleosidetriphosphatase; Fragile histidine triad protein
遺伝子 ID	2272.0
SwissProt ID	P49789
免疫原	抗血清は、ヒト FHIT 由来の合成ペプチドの Tyr114 のリン酸化部位周辺に対して作製された。アミノ酸範囲: 80-129

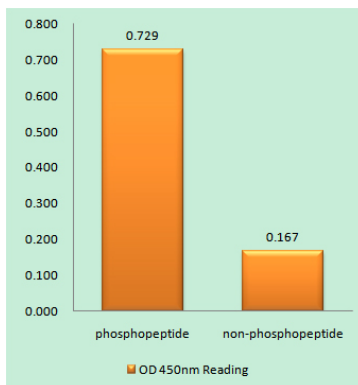
背景

この遺伝子はヒスチジントライアド遺伝子ファミリーの一員であり、プリン代謝に関与するジアデノシン 5',5'''-P1,P3-三リン酸加水分解酵素をコードする。この遺伝子は、3番染色体上の共通脆弱部位 FRA3B を包含しており、発がん物質誘発性の損傷により、この遺伝子の転座および異常転写産物が生じる可能性がある。実際、この遺伝子の異常転写産物は、食道癌、胃癌、および結腸癌の約半数で見ついている。この遺伝子には、選択的スプライシングによる転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年10月],触媒活性: P(1)-P(3)-ビス(5'-アデノシル)三リン酸 + H(2)O = ADP + AMP.,補因子: 二価陽イオン。マグネシウムが代替となるが、マンガン、および程度は低いもののカルシウムやコバルトも代替可能である。亜鉛、カドミウム、ニッケルには含まれません。 ,疾患: FHIT に関連する染色体異常は、早期発症の両側性および多巣性明細胞腎癌 [MIM:144700] で観察されます。転座 t(3;8) (3p14.2) 。,疾患: 消化管癌に関連しています。脆弱部位遺伝子座 FRA3B を含む染色体 3p14.2 のコード領域の欠失により、多くの腫瘍型で異常な FHIT タンパク質が見つかっています。 ,機能: A-5'-PPP-5'A を切断して AMP と ADP を生成します。特定の組織の腫瘍抑制因子である可能性があります。 ,質量分析: PubMed: 15007172,類似性: 1つの HIT ドメインを含みます。 ,サブユニット: ホモ二量体。 ,組織特異性: 検査したすべての組織で低レベルの発現が見られました。リン酸化 FHIT は肝臓と腎臓で観察されたが、脳と肺では観察されなかった。試験した全てのヒト腫瘍細胞株において、リン酸化 FHIT は検出されなかった。

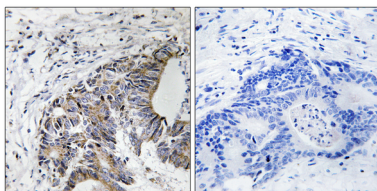
研究分野

プリン代謝;小細胞肺癌;非小細胞肺癌;

画像データ



FHIT (リン酸化 Tyr114) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



FHIT (リン酸化 Tyr114) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。